

いわき空間ビジョンの提案

東京大学工学系研究科都市工学専攻

同工学部都市工学科

城所・瀬田研究室 2013年9月

目次

第Ⅰ部 都市レベルの空間像

第Ⅱ部 起業支援

第Ⅲ部 水都 小名浜

第 I 部 都市レベルの空間像

竹内啓 西牟田章士 野呂岳史 山崎大夢 北島遼太郎

いわき市提案ビジョン 「共生最先端都市いわき」

職住近接型タウンセンターの再生

- 現在のいわき駅周辺中心の一極集中型都市構造から、4つの地域(平・小名浜・湯本・植田)を中心とした都市構造への転換を図る。
- 各タウンセンターを中心とした発展により、従来の車を必要とする生活から歩いて暮らせる職住近接型の都市構造を目指す。

起業ネットワークの形成

- 各タウンセンターには起業支援施設「インキュベーションラボ(ILL)」を配置し、各ILLをITで繋ぎアイデアの交流を図ることで、起業ネットワークを形成する。
- 各ILLにはそれぞれの業種による特色を設け、それぞれの土地に応じた起業促進を図る。

水と緑のネットワークの再生

- いわきの魅力の一つである水と緑のネットワークを再生し、自然の中でのクリエイティブな起業活動を促進する。

平 ～空の見えるオフィス～

いわきの商業の核として発展してきた平地区。文化施設や公共施設が集積し市の中心として発展する一方で、繁華街のの衰退や渋滞の発生など集中の弊害もある。



- IT & 第6次産業の起業を誘致し、既存のインフラを活用しながら一極集中型の地域経済から脱却し、市内全域の活性化を支援する。
- 夏井川や丹後沢公園などの自然を生かし、東京にはないオフィスの在り方を提案する。

III平で行う3つの支援

ベンチャー支援

- 公共施設や自然公園等への無料Wifiスポット設置や他のIIIとのネットワーク構築によって、IT企業を始めとする多角的な先進産業の起業をバックアップする。

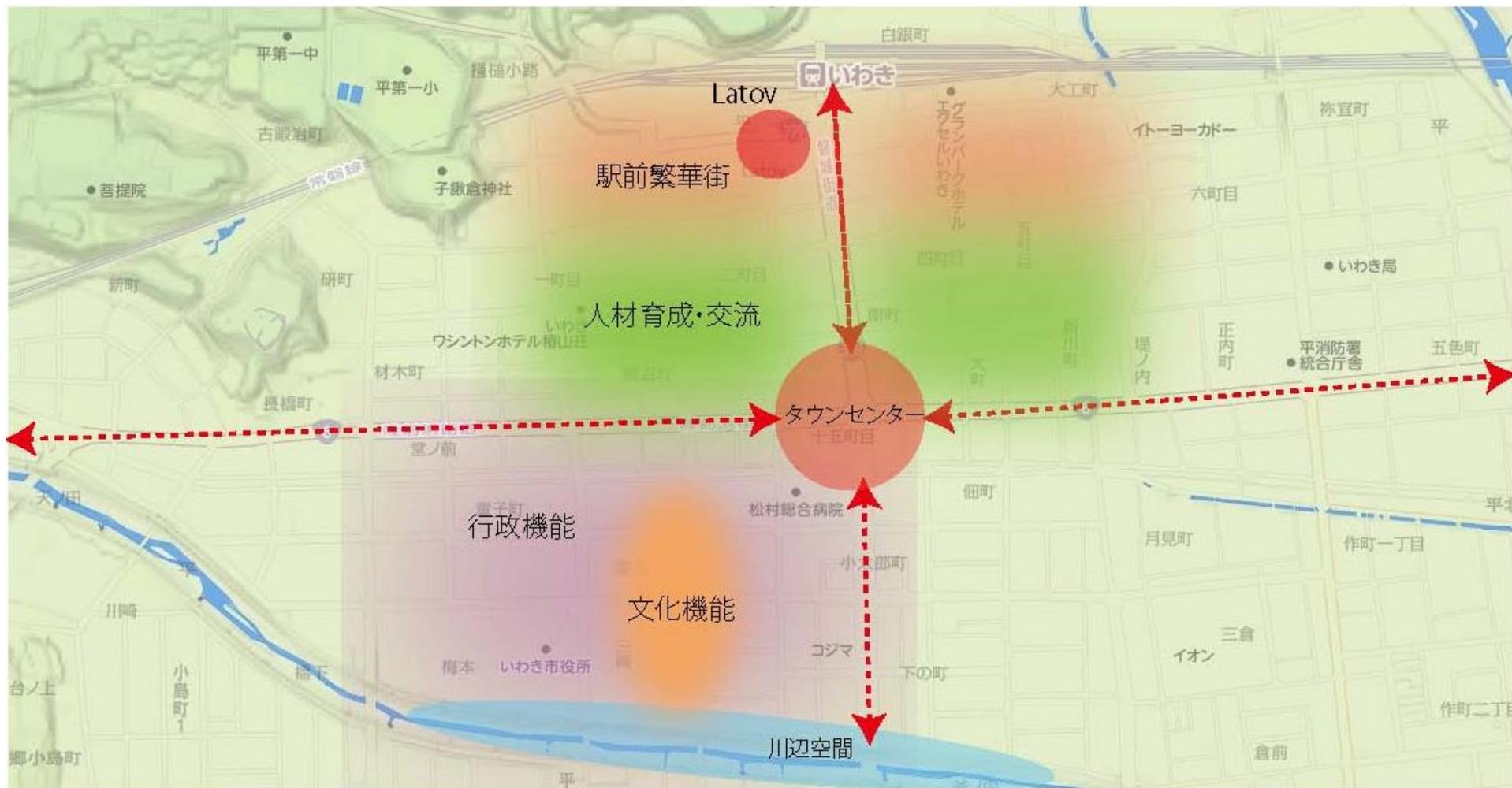
人材確保

- 市内の高校や県内の大学と連携し、インターシップや合同研究などのプロジェクトをより自由に組むための支援を行う。
- 海外や都心へのPRサイトの創設や相談所・交流イベントを行うことで、国際的な人材確保をサポートする。

まちの活性化

- インキュベーション施設は既存の空きビルを利用することでまちを活性化させながら、地域全体がひとつの“空の見えるオフィス”として機能することを目指す。

平 ～空の見えるオフィス～



小名浜 ～復興エコタウン～

かつては海産物が名産の漁港であったが、原発事故後はその特徴も失われている。近年ではアクアマリンやら・ら・みゆうによって観光者も増え、またイオンもオープンするため、新たな賑わいの発信地として期待される。



- ILL小名浜では、洋上発電や廃炉・除染技術などの復興需要を活かした環境技術関連の起業を促進し、復興の進捗に応じて小名浜本来の水産業を復権させる。
- 復興関連産業をきっかけに太陽光、バイオマスなど再生可能エネルギー関連の起業を促進し、小名浜の復興・環境技術産業のイメージを強化する。
- イオンと川沿いの親水空間を中心としたタウンセンターを形成し、水と緑の溢れる良質な起業環境を形成する。
- 空家のリノベーションによってインキュベーションのための貸オフィスや低廉な貸家を提供する。

廃炉技術系起業家Aさんの一日

- 08:30 アパートから川沿いのオフィスへ通勤。
- 12:00 歩いてイオンまで行き、広場で港の景色を眺めながら昼食。
- 15:00 ILL小名浜にて起業支援に関する打ち合わせ。
- 19:00 終業後、再びILL小名浜で洋上発電関連の起業家と意見交換。アイデアを膨らませる。

小名浜 ～復興エコタウン～

泉駅



湯本 ～湯けむりアートタウン～

じゃんがら・吹奏楽・フラダンス・陶芸など様々な芸術活動・伝統芸能が盛んな街、湯本。一方で知名度の低さと平の経済的求心力とから、ハワイアンズを除いて街に活気はない。



- 駅周辺の団地は若い芸術家の住まいとして再生し、団地アートや個展を通じて集合住宅ならではの近接した交流を促進する。
- 既存の温泉旅館街は閑静な雰囲気を保ち、豊かな自然と共に感性を研ぎ澄ます空間を創出する。
- 湯本駅東口に新設するIII湯本は芸術家の育成や表現の拠点として賑わう。
- 作品のブランディングや芸術祭を行い、芸術の街湯本のPRも行う。

工芸家Aさんの一日

- 08:00: 行きつけの温泉旅館まで散歩。朝風呂で英気を養い、駅前のアトリエへ。
- 12:00: 作業に煮詰まったので食事に行く。じゃんがらを見てアイデアが浮かぶ。
- 15:00: 遠野の工芸仲間とIII湯本で会合。コラボ商品のPR方法について相談する。
- 19:00: 隣に住む仲の良い音楽家と食事。来月の湯本芸術祭について夢を膨らませます。

植田 ～インキョベーションタウン～

豊富な自然と田畑を持つ植田。山間部には牧場などもあったが原発事故の風評被害で最近では厳しい情勢にある。また田人地域などへのバス路線は多く、中山間地域との玄関口としての役割も持つ。

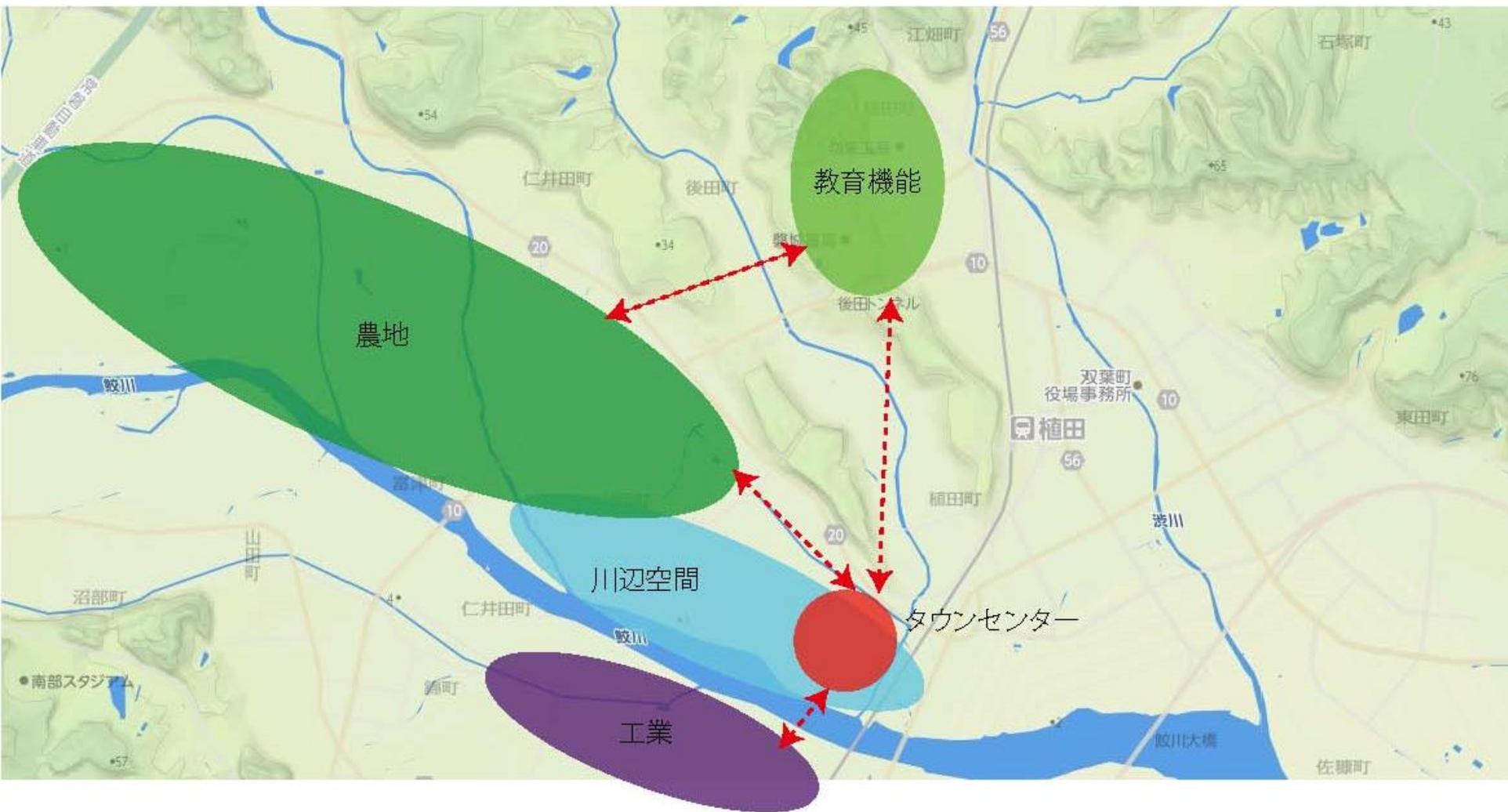


- 近隣の高校に対して短期インターンシップを実施し、農学の連携によって若者の農業への労働力の供給を図る。
- 既存の農業・林業・窯業に関する起業支援をIIL植田で行う。
- 中山間地域における「隠居」型ライフスタイルを確立し、隠居ができる地域として発信する。

インキョベーションラボ植田

- 都市から離れ、自然に囲まれた「田舎」の環境下で、地元の産業を自分のペースで営むライフスタイルを発信する。
- 隠居希望者の管理や運営をIIL植田が行う。
- 廃屋のリノベーションを行うことで隠居希望者の入居環境を整備する。
- 既存の公共施設を利用して隠居者のコミュニティを形成し、隠居生活の充足を図る。
- 隠居者の生産する製品を『隠居ブランド』製品(窯業・林業・窯業)として発信し、全国へ展開することで植田の隠居スポットとしての地位を確立していく。
- 大自然の中でも現代人が安心して起業ができるようにインターネット回線を確保する。

植田 ～インキョベーションタウン～



タウンセンターの再生

起業ネットワークの形成

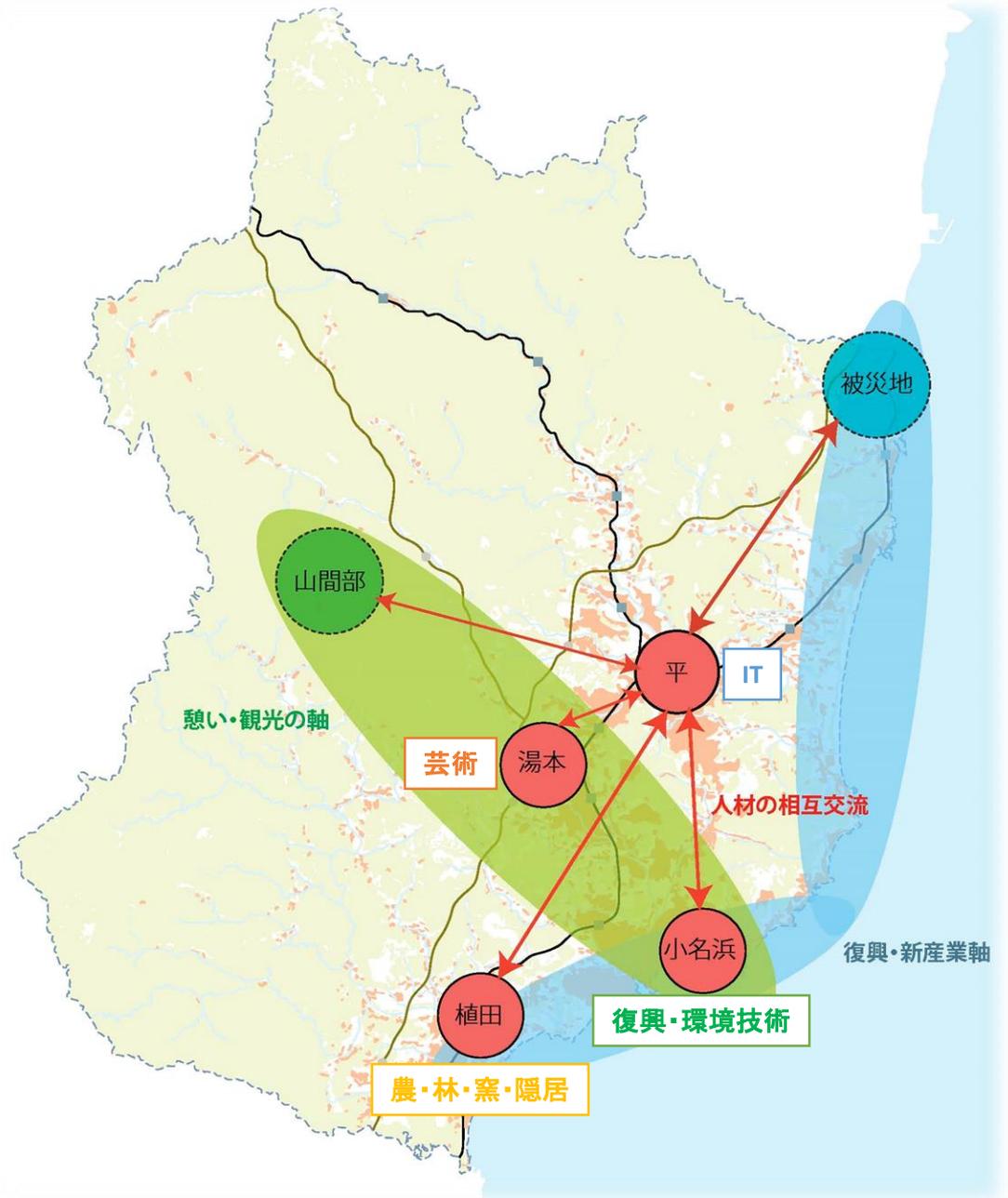
水と緑のネットワークの再生



- 山・川・海との共生、原発事故との共生、農工商の共生、老若男女の共生など、様々な共生を実現させる。
- 復興、新産業、地方都市が抱える諸問題解決のモデルとしての最先端都市を目指す。

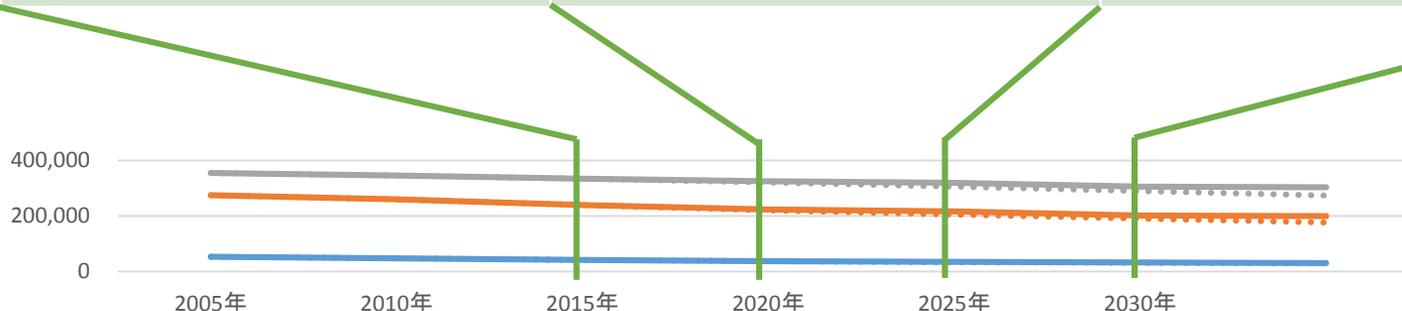


「共生最先端都市いわき」
の実現へ



いわき再生のタイムライン

	2015年～2020年	2020年～2025年	2025年～2030年
平	ビジネスコンクールを毎年開催。 いわき＝起業のイメージが浸透。	多業種で起業が盛んに。他IILの 企業の経営教育も行われる。	事業所数の減少がストップ。 シャッター商店街に活気が戻る。
小名浜	復興産業で知名度が上がる。 City Centerが新しい経済活力に。	IIL植田の研究を応用したバイオ 事業が成功し卒業第一号に。	エコ産業が次々確立。地区全体 が日本のエコシティの手本にされる。
湯本	団地のイノベーションが開始。 有志により湯本芸術祭開催。	温泉街の再生が終わり観光客増。 外国からも芸術家が集まる。	日本有数の芸術のまちへ。 駅前パフォーマーの聖地になる。
植田	農学連携プログラムスタート。 バイオ関連の中小企業も集まる。	企業と山間部との協力で林業が 復活。研究所も置かれるように。	先進的な農林業の研究基盤とし て国内産業を支えるにまで成長 する。
山間部	隠居が団塊に密かなヒット。 脱サラして窯業を始める人も。	IILのサポートで生まれた他業種 コラボ作品が湯本芸術祭で表彰。	隠居ブランドの工芸品が有名に。 賑わう過疎地として注目を集める。



..... (-)年少人口 (-)生産年齢人口 (-)老年人口

人口予測:(-)は人口問題研究所による現在の推計値

第Ⅱ部 起業支援

岩田大輝 秋山太陽

目次

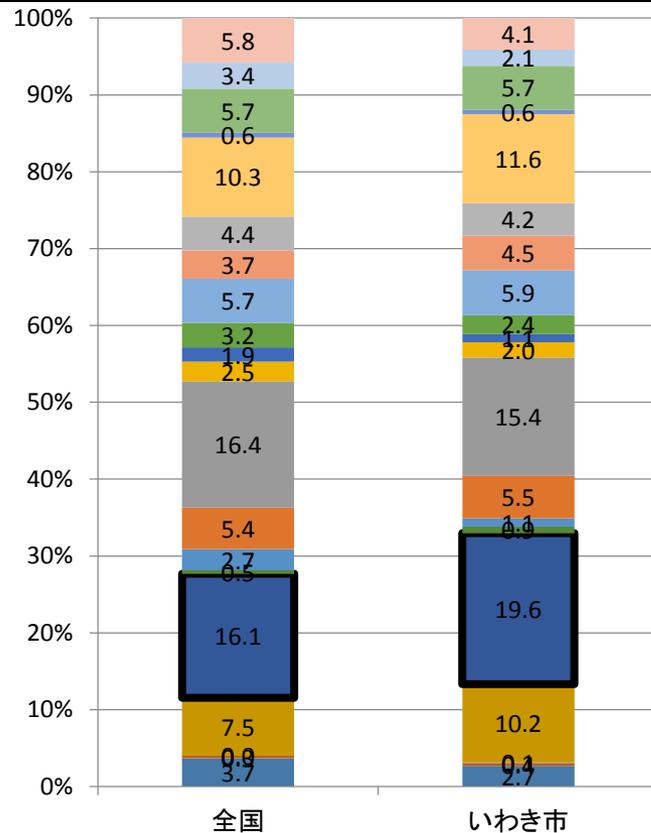
- 現状分析と課題
- 起業支援の仕組み

現状分析と課題

産業状況

いわき市は、工業就業者の割合が高いが、生産拠点の海外移転の潮流とともに、震災による打撃を受け、将来にわたって安定的な雇用維持が危ぶまれる。

⇒新事業創出が求められ、その一つの手段として起業がある



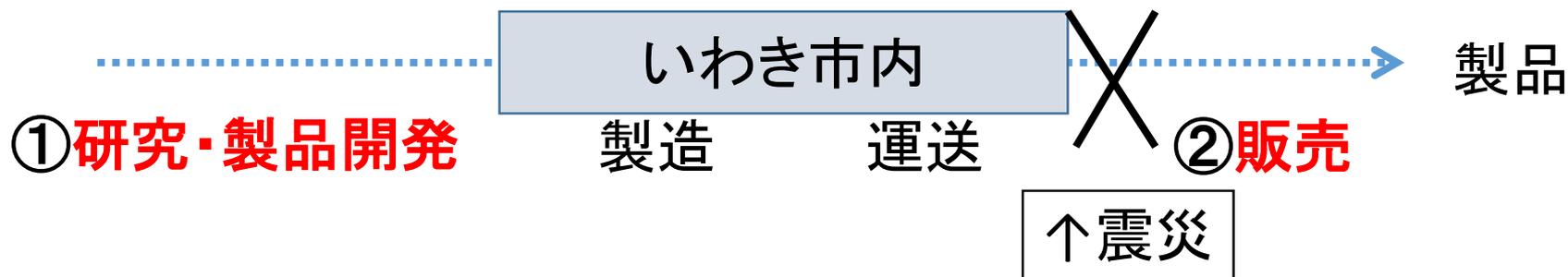
「市内事業所の物的損害500～600億円。事業所数の6割が何らかの被害を受け、9割が風評被害による売り上げを下げた」

いわき産学官ネットワーク協会ヒアリング回答より

いわき市の製造業の課題は、中間生産物を作る下請けの
中小企業や大企業の単なる生産拠点が大多数であるため

①製品開発力に欠けて付加価値が低いこと

②販売のための営業力がもともとない上に、震災の影響で
納入・販売先が少なくなってしまったこと



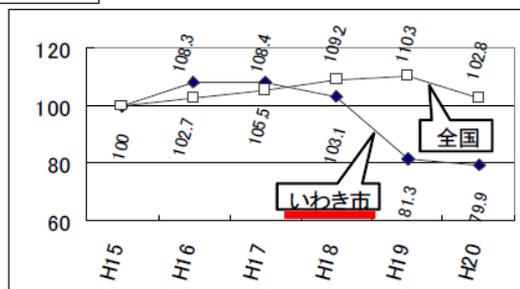
①研究・製品開発

②販売

一事業所あたり(平均工場規模) 単位:百万円

区分	H15	H16	H17	H18	H19	H20
いわき市	1,253	1,379	1,381	1,475	1,480	1,463
福島市	1,340	1,471	1,530	1,755	1,950	1,856
郡山市	1,253	1,612	1,633	1,900	1,833	1,616

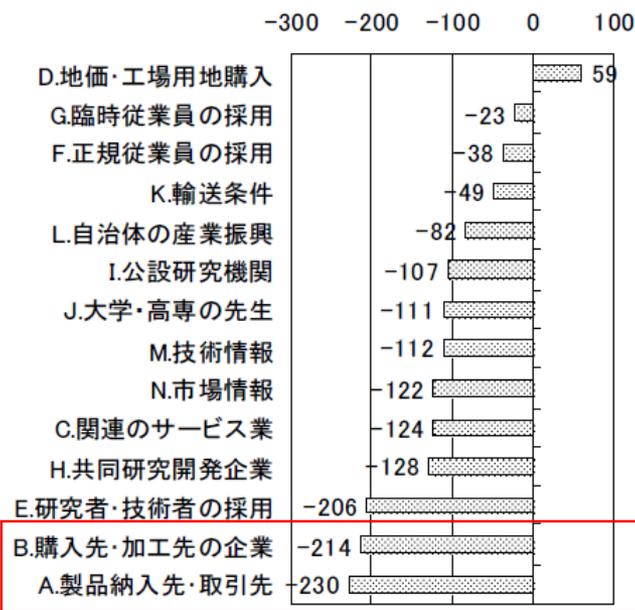
付加価値額



いわき市の1事業所あたり出荷額は低く、付加価値指数も低い

【図 3-1-10 本市の立地条件の評価】

(優れている×2、やや優れている×1、普通×0、比較的劣っている×-1、劣っている×-2 とした平均得点)



震災前のアンケートでも、製品の販売・納入先に関する不満が高く、ヒアリングで営業力が課題とされる

いわき産学官ネットワーク協会は2004年設立以来、研究開発支援に注力してきた。製品の販売面に関しては、震災後から危機感をもって支援し始めたが、震災前の水準には戻せない...



「産学官連携・技術開発支援事業で支援した24件のうち約3割が事業化に至り、今年度の予算も倍になった」

「従来の技術開発支援だけでなく海外も含めた新たな販路の開拓にも力を入れ始めている。ただ大企業の製造ラインの一部に組み込んでもらうのは大変」

いわき産学官ネットワーク協会ヒアリング回答より

CONTENTS

- トップページ
- ICSNについて
- 入会のご案内
- お知らせ一覧
- セミナー・イベント情報
- 産学官連携コーディネータ兼プロジェクトマネージャ
- 事務局紹介
- アクセスマップ
- 公報情報
- リンク

❖いわき地域の新事業・新産業創出を強力にサポート

公益社団法人いわき産学官ネットワーク協会は、いわき地域内外の産学官の人材、技術、資金、情報の結節交流拠点として、そのネットワークを活用して、地域産業界の多様なニーズに一元化・総合的に対応することで、企業の経営革新、新産業・新事業の創出、雇用の創出を図り、いわき地域の活性化に貢献することを目的としております。

WHAT'S NEW 新着情報

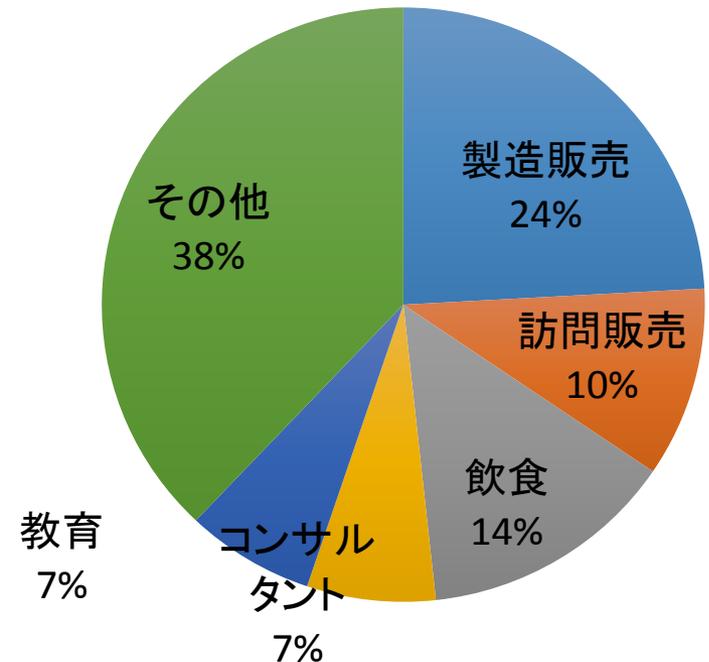
お知らせ一覧

- 2013-08-30 ○『いわき市農商工連携推進事業可能性調査補助金』の採択案件が決定しました！
- 2013-08-20 ○平成25年度 9月・10月『中小企業者・創業者向けの経営相談会』開催のお知らせ
- 2013-08-08 ○～夢を実現する第一歩！～『平成25年度 創業者向け 経営勉強会』受講生募集のご案内
- 2013-08-01 ○平成25年度 産学官連携・技術開発支援事業 採択案件が決定しました！
- 2013-08-01 ○平成25年度 第5回 オフタイムサロン『成功事例を生み出す新製品開発の秘訣』開催のお知らせ

起業状況

第12回いわきビジネスプランコンテスト 起業支援対象者

業種	プラン数	備考
製造販売	7	
訪問販売	3	
飲食	4	
コンサルタント	2	
教育	2	
その他	11	ウェブサイト運営、オフィス運営、デイサービス、在宅療養者支援、マッサージ、バルーンアート、着物リメイク、印刷業、心理カウンセラー、不動産、サロン
計	29	



8/7ヒアリング いわきリエゾンオフィス企業組合理事長 佐藤直美さん

起業数は増えてきている。公的な施策も多いし、バブリーな状態。
今立ち上がらねばという気持ちがある。
業種は、やはり人が増えているということで、飲食店、小売物販が多い。
飲食店はなんでも始めれば大丈夫という状態。



支援状況

いわきリエゾンオフィス企業組合



- ・いわきリエゾンオフィス企業組合@平
相談業務やコンサルティング業務、ビジネスプランコンテスト等の実施。
市や他の団体からの出資は基本なし。
ーいわきビジネスカフェ@いわき駅前映画館1F

- ・いわき産学官ネットワーク協会@平
起業家支援、インキュベートルーム等の貸出。



- ・TATAKIAGE Japan
いわき駅近くの夜明け市場内小ワーキングスペース



今のところ、起業支援の団体、空間が幾つかあり、その数が少ないという状況ではないが、今後需要がさらに増えることも予想される。

今後必要な支援のあり方

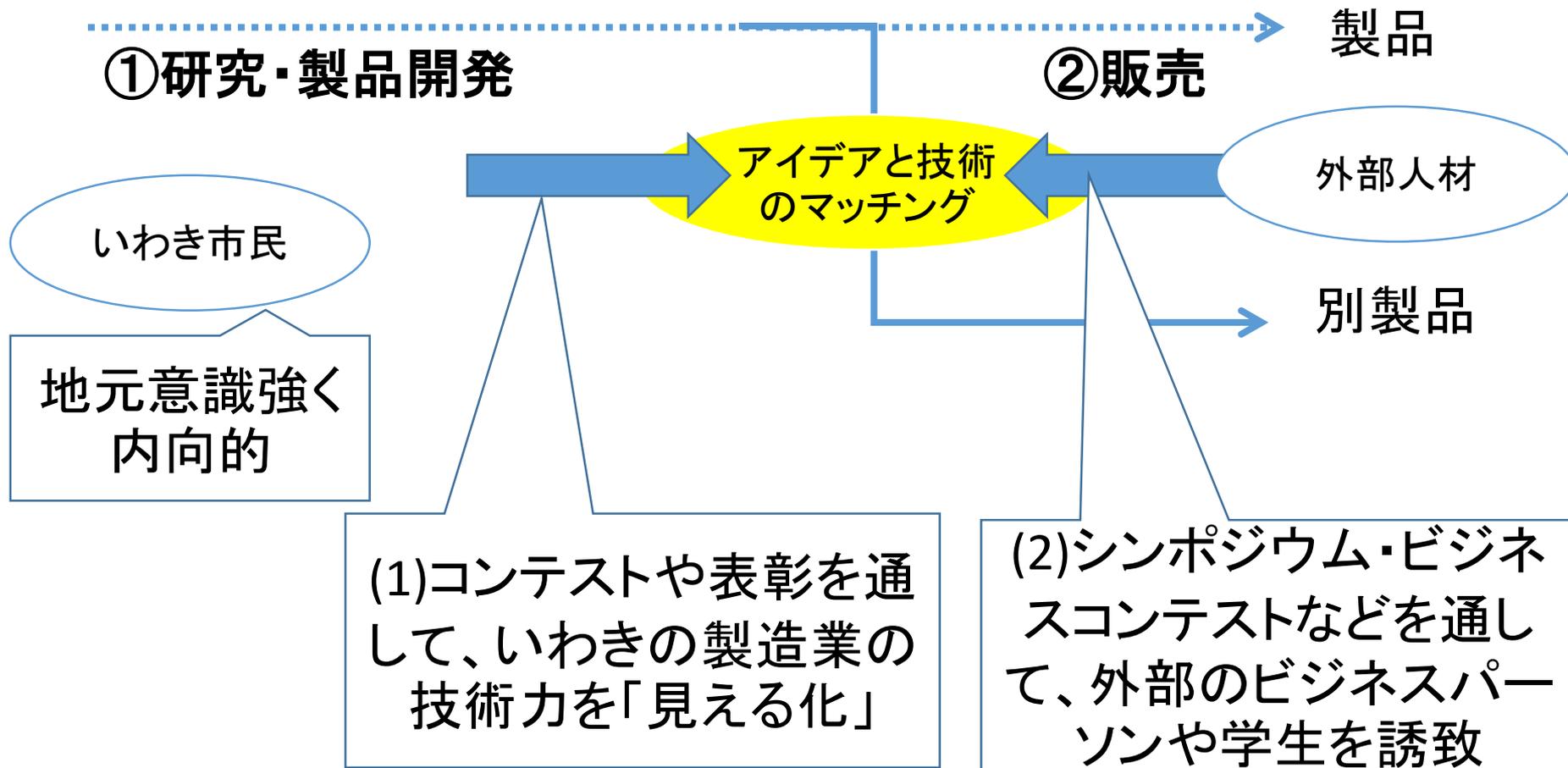
震災後に人が増え、ニーズが変わり、人々の意識が変わったプチバブルな状態
新しく事業を始める人、始めたい人が増加、
それを支援するビジネスプランコンテストは始まったばかり

芽吹きだしたビジネスを、持続的に支援し、事業拡大を促す支援が必要！

起業支援の仕組み

1. 見える化

市の企業内部の者が、研究開発により既存製品の改良をする方向性から、その製品に使われている技術を「見える化」して、他の製品の製造のために使えないか外部の者に考えてもらうという販売側から事業企画する方向性へ



参考事例

(1) コンテストや表彰を通して、いわきの製造業の技術力を「見える化」

世界の産業を支える超硬工具のリーディングカンパニー
株式会社タンゴロイ



「先駆的ないわきのものづくり企業」調査発表・広報事業
いわきのものづくり
いわき発の優れたものづくり企業50社 2008

世界をリードする超硬工具のリーディングカンパニー、株式会社タンゴロイの技術力を「見える化」し、製造業の技術力を「見える化」する。超硬工具のリーディングカンパニー、株式会社タンゴロイの技術力を「見える化」し、製造業の技術力を「見える化」する。

超硬製品の開発及び製造技術

超硬工具は、切削加工の効率を大幅に向上させる。超硬工具のリーディングカンパニー、株式会社タンゴロイの技術力を「見える化」し、製造業の技術力を「見える化」する。



代表取締役社長 徳永昭大

(2) シンポジウム・ビジネスコンテストなどを通して、外部のビジネスパーソンや学生を誘致

自分にとってとてもプラスになりました！



NPO活動は信頼で成り立っていると感じました。活動では、人と会う機会がとても多くあり日々のコミュニケーションが大事だ！信頼を得るために丁寧な活動を継続していくことが大事だと思いました。事情があり福島と栃木を往復しながらの参加で大変でしたが、やりきれたことは自分にとってとてもプラスになりました。今後はこの活動を生かす努力をしたいと思います。短い個でしたが、ありがとうございました。

大窪 健史さん(26歳 NPO法人職員)

大窪 健史さんが受けた研修先はコチラ

感謝を伝えていきたいと思います！



研修を通して先生と呼ばれたことが印象に残っています。補助とはいえ講師と言ったちばであることは分かっていましたが、なんとなくこそばゆいなと感じました。講師という敬える側として、生徒を意識して見るだけではなくその人が好きでないといいないし、ポジティブな精神状態でないとできないことなんだと気付くこともできました。インターンシップ先である株式会社TRKさんでアルバイトとして活動していくことになりました。言葉ではなく学んだことを自分のものにし、行動していくことで感謝を伝えていきたいです。

大戸 亜希子さん(25歳 フリーター)

大戸 亜希子さんが受けた研修先はコチラ

「いわきのものづくり2008(いわき発ものづくり企業50社)」

<http://www.iwaki-sangakukan.com/index.html>

いわきリエゾンオフィス主催「いわき復興型インターンシップ」

<http://www.iwaki-liaison.co.jp/internship/>

2. 事業拡大促進

- ・カフェや飲食店→店舗増

一店舗で完結せず、その後の店舗増加を目指す。
食べ物やお土産といった商品の開発とネット販売。

例) いわき市に根をはったスーパー・マルト



- ・工業団地→連携による新商品開発

工業団地として企業同士が近くに立地している点を活かす

- ・新規起業→今後の成長が期待できるICTでの新規起業

いわき市発のICTを活用した成長企業

例) フェイスブック、DeNA

facebook

まとめ一起業支援の仕組み

1. 見える化と外部人材の誘致

中央資本による企業立地や復興特需はもとより、内発的な研究開発や起業に期待しすぎることなく、外部人材を絶えず誘致・調達する仕組み作り

2. 事業拡大

起業を持続的に支援し、事業拡大を促す支援

「起業」しやすい、したくなる空間をもつ
いわき市へ

ご清聴
ありがとうございました



第Ⅲ部 水都 小名浜

黒本 商 越野 濱田

「水の都」

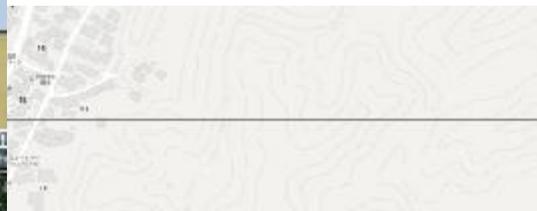
小名浜

2013年度夏学期 いわき輪講最終発表
まちなか班 黒本 商 越野 濱田

小名浜の現状



人が少ない商店街



風俗街

住工混在地区



貨物列車の車庫



山も海も見える

川沿いの現状



寂しいポンプ場



ポテンシャル



山を背景とした港町の景観
臨海工業地域では美しい夜景も見られる。

桜がとともに海を眺められる公園（富ヶ浦公園）
小名川沿いにも桜が植えられている。



While it's just great planning, and everybody says it's a good one.
It is a good one, too, but it's not balanced by what
David Hyackel



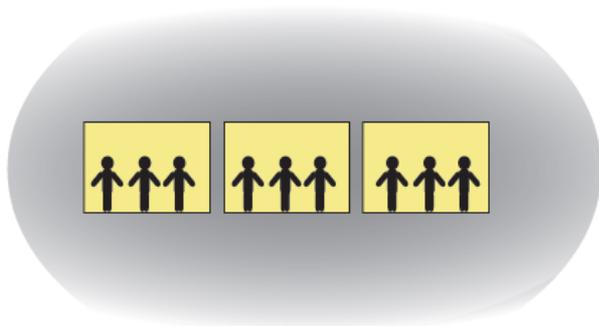
漁港での祭りの開催
豊かな海の資源の利用

イオンの開発
地元とどう打ち解けていくか。
海と陸のつなぎ目としての役割



コンセプト：賑わいを可視化する

中

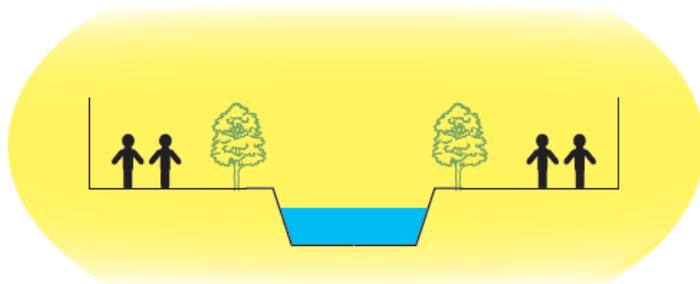


現状

居酒屋などの中には人が集まり、賑わっている。
しかし、外の街中は閑散としている。
海と街は関係性がない。

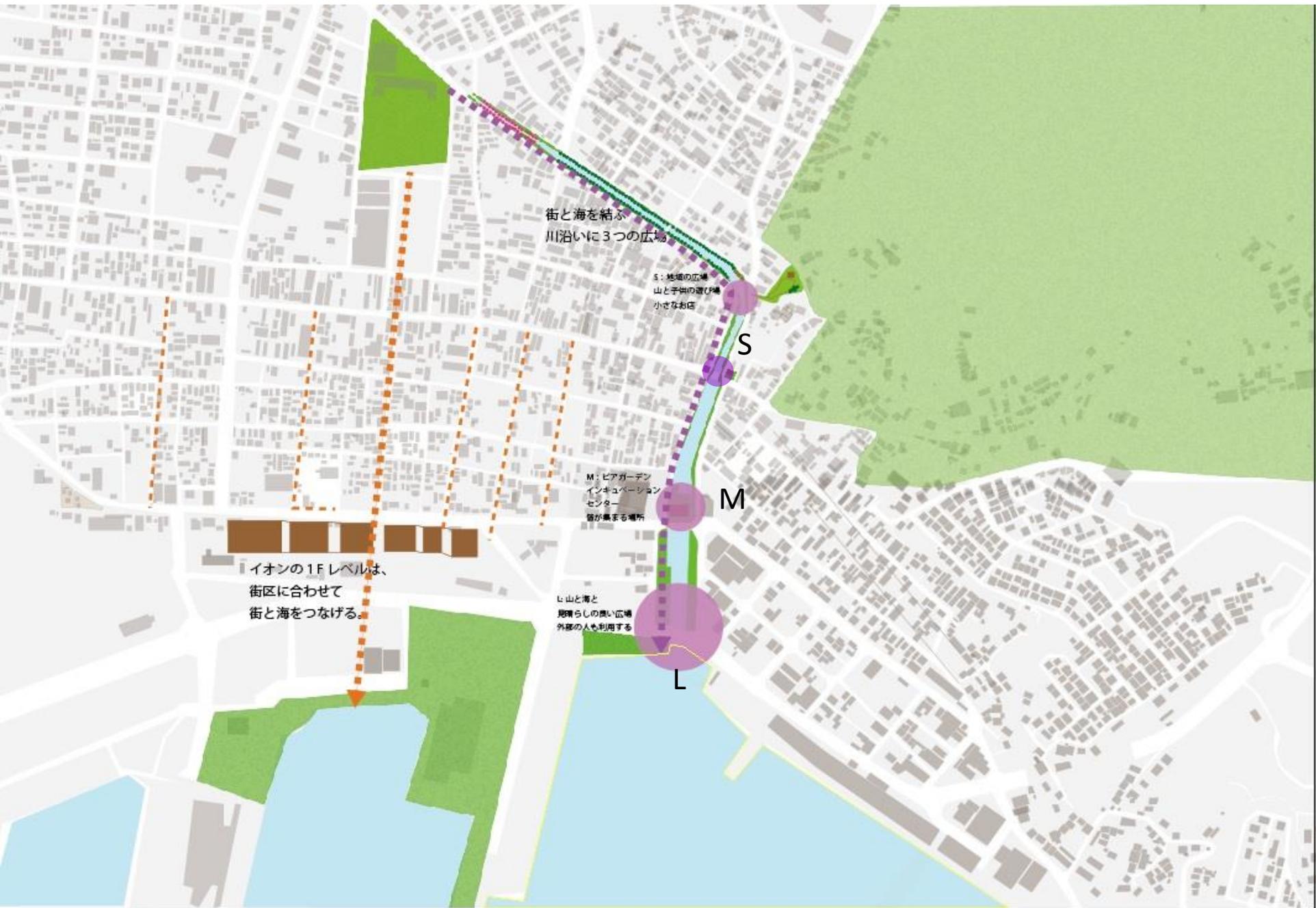


外へ

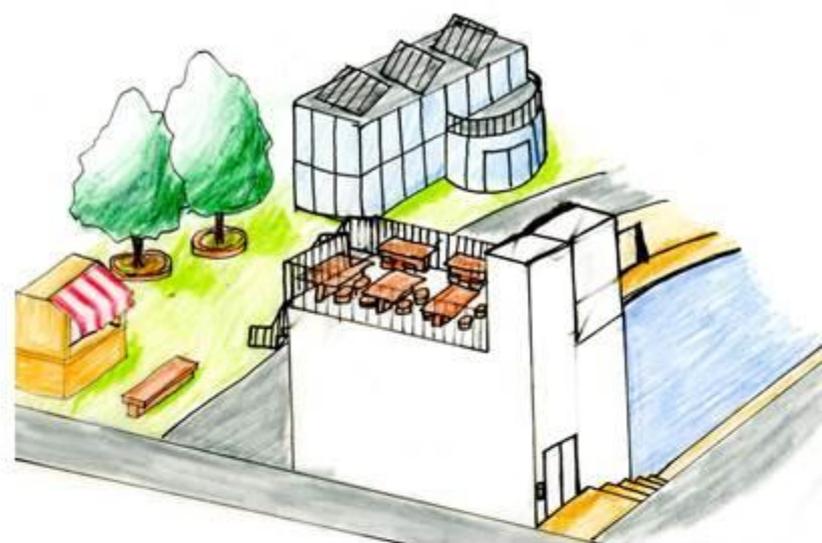


改善策

外での交流を活発に
その際に、桜、川、海、眺望を活用する



北側



橋詰に 水辺に 人が集う工夫を

- ・Sのゾーンには神社や遊び場など広いオープンスペースを設けることで地元のひとを中心として水と親しみくつろげる空間へ
- ・Mのゾーンではポンプ場やインキュベーションセンターをはじめ様々な施設を設けることで出会い楽しむ創造的な空間へ
(その先公園により海辺(L)へと繋がる)
- ・車道を一方通行化することにより川沿いの歩道を広く取り散歩やランニングなど川辺空間を楽しむように
- ・並木を絶えず植えることにより緑の帯を作り出し川辺空間を演出する

平面図（南側）



駅前 イメージ図



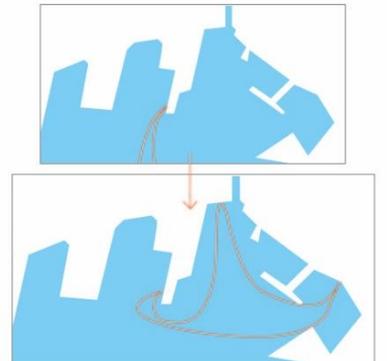
concept



西側海沿いの観光客を中心とした賑わいが、海沿いに留まらず、公園を通じて川辺へのびる。



観光施設に縁遠い地元住民も、川辺とつながる海浜公園を訪れ、海がより身近に。



遊覧船を水上バス化し、中心部から遠い市場食堂、展望台を観光圏内へ。